

令和5年度防災指導者講習会



たいとう 関東大震災100年事業



震災教訓の継承と防災意識の啓発

はじめに

災害教訓の難しさ

この失敗を「教訓」にする。 この経験を「教訓」にする ⇒当事者

災害教訓は、当事者でないと、共感や理解しにくいところがある

○地域によって被災リスクが異なる

東日本大震災の津波

○関東大震災 「台東区」での実災害ですが

100年前とは科学・技術が進んだ現代とは比較にできないのでは？

関東大震災に関する資料等

防災指導者講習会資料(関東大震災100年関係)



たいとう防災アプリ「たいとう防災」



内閣府 関東大震災100年事業特設ページ



気象庁「関東大震災から100年」特設ページ



関東大震災・阪神淡路大震災・東日本大震災との比較（内閣府HP）

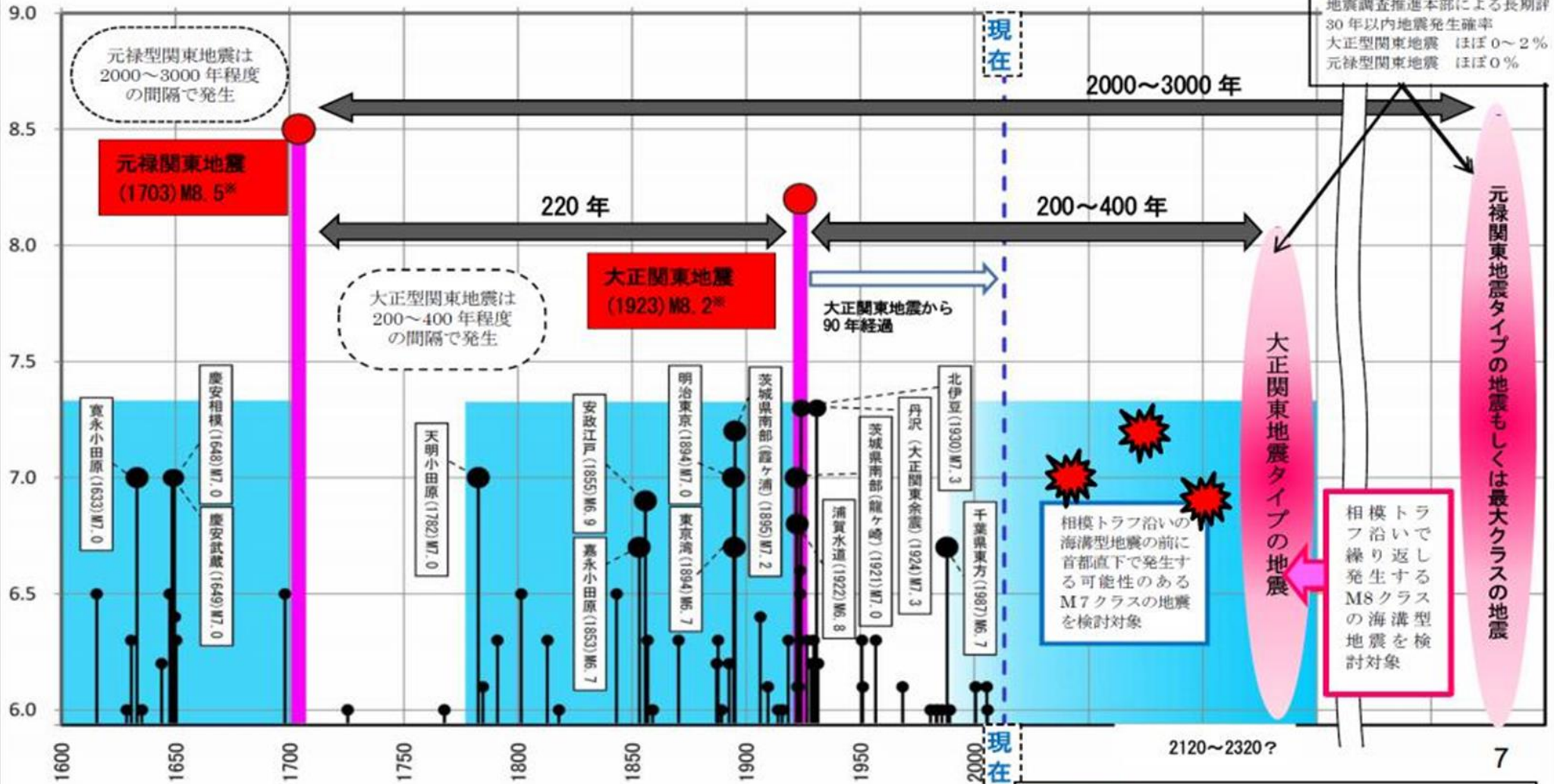
	関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生年月日	1923年（大正12年）9月1日 土曜日 午前11時58分	1995年（平成7年）1月17日 火曜日 午前5時46分	2011年（平成23年）3月11日 金曜日 午後2時46分
地震規模	マグニチュード M7.9	マグニチュード M7.3	モーメントマグニチュード Mw9.0
直接死・行方不明	約10万5千人 （うち焼死 約9割）	約5,500人 （うち窒息・圧死 約7割）	約1万8千人 （うち溺死 約9割）
災害関連死	—	約900人	約3,800人
全壊・全焼住家	約29万棟	約11万棟	約12万棟
経済被害	約55億円	約9兆6千億円	約16兆9千億円
当時のGDP	約149億円	約522兆円	約497兆円
GDP比	約37%	約2%	約3%
当時の国家予算	約14億円	約73兆円	約92兆円

出典：諸井・武村（2004）『日本地震工学会論文集』第4巻第4号、東京市役所（1926）『東京震災録：前輯』、一橋大学社会科学統計情報研究センター『長期経済統計データベース』、気象庁、警察庁、消防庁、復興庁、国土庁、内閣府、財務省、兵庫県資料をもとに内閣府防災担当作成

1600年以降の南関東で発生した地震(M6以上)

南関東では、200~400年間隔で発生する関東地震(M8クラス)の地震の間に、マグニチュード7クラスの地震が数回発生している

元禄と大正の関東地震のマグニチュードは作業委員会での再計算値である。



原図:首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告)中央防災会議

令和4年5月公表の大正関東大震災との比較

		住家被害棟数						死者数 (行方不明者含む)		
		全潰	非焼失	半潰	非焼失	焼失	合計	住家 全壊	火災	合計
関東大震災 実災害	東京府	24,469	11,842	29,525	17,231	176,505	205,580	3,546	66,521	70,067
	東京市	12,192	1,458	11,122	1,253	166,191	168,902	2,758	65,902	68,660
令和4年想定	23区	24,873		106,862		19,659	151,394	982	400	1,382

関東大震災の被害状況及び原因

○建物倒壊 本震以外にM7.0以上の余震が多く発生 東京に倒壊をもたらした地震はこの余震であったとの見方もある。倒壊家屋がその後、焼失

○火災 ほとんどが木造建築物で揺れにより倒壊・出火

初期消火率 42% 低くない数字

気象状況 台風が日本海を通過中、当日風速10~15mの強い南風を観測

消火体制 消防署は区内にも設置されていたが、当時はポンプ車も少なく、火消しが発展した消防組もあったが、設備・人員とも不十分

関東大震災の被害状況及び原因

○人的被害

東京市では焼死が96%を占める

うち被服廠跡地 現都立横網町公園（東京都慰霊堂）38,000名で市内焼死者の約半数

区内でも死亡者が多い場所が点在している

旧田中小 1,081名 当時、田中小一帯は湿地で水深は不明 火災旋風による死亡

吉原池 490名 池での溺死が多い

区内北部、特に金杉地区での死亡者数が顕著

関東大震災の震災教訓

災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 平成18年7月

関東大震災は近代化した首都圏を襲った唯一の巨大地震であり、その被害の大きさ、社会的インパクトとも比較を絶する災害であった。

- 第一編 発災とメカニズム（概要・報告書）
- 第二編 救援と救済
- 第三編 復興と社会的インパクト

震災教訓 ○初期消火の重要性

関東大震災時の初期消火 多くは成功

奇跡的に焼失を免れた町

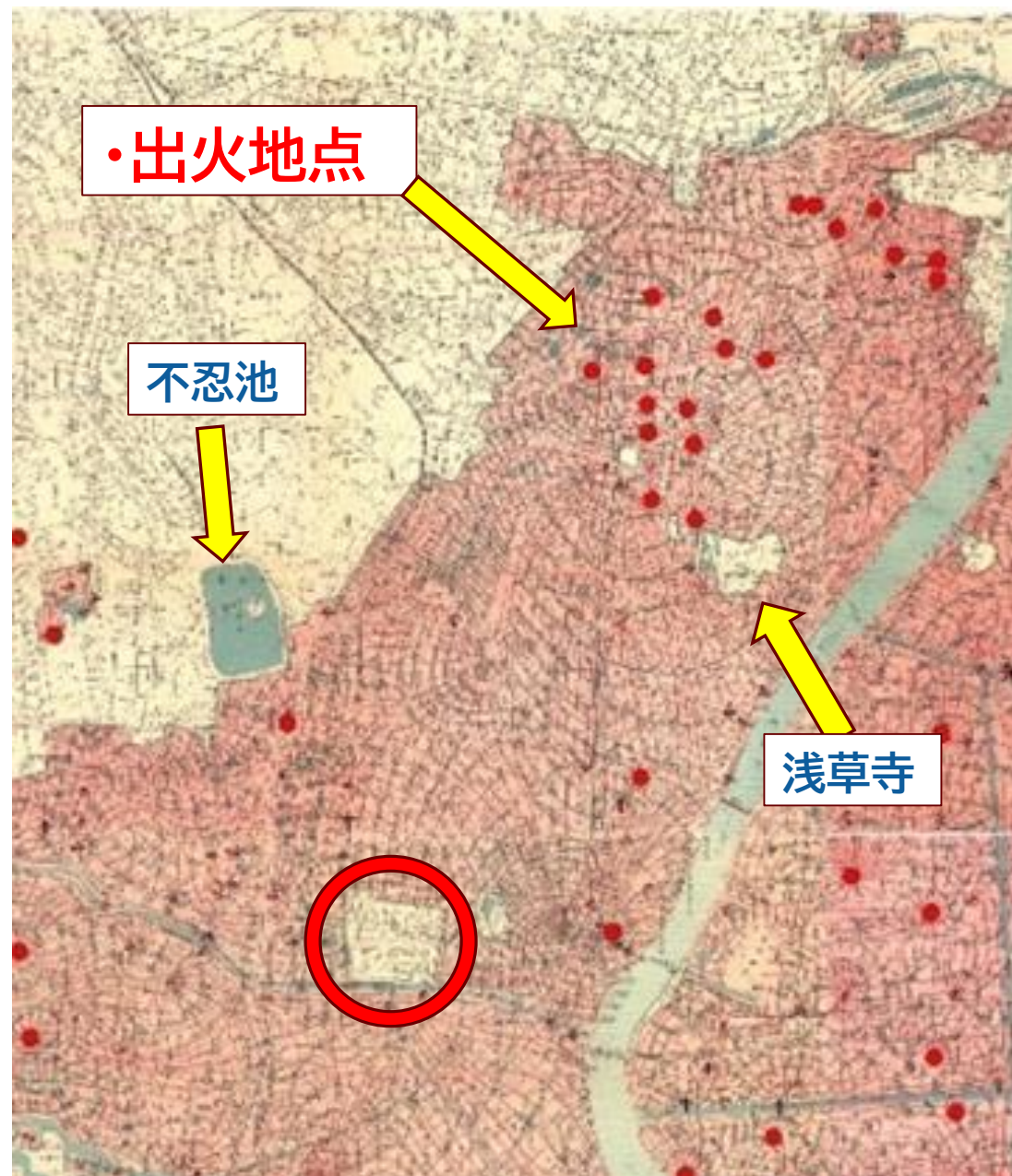
神田和泉町・佐久間町

和泉公園「防火守護の地」の碑

地域住民が協力して消火活動を行い、
延焼を免れた

和泉公園「防火守護の地」の碑

条件 水利(神田川)・近くのポンプ工場・
エリア一角に病院等の立地



震災教訓 ○災害時の情報

災害教訓の継承に関する専門調査会報告書から

表4-4 2日以降5日までの「災害時下殺傷事犯」一覧

流言・デマで自警団等による朝鮮人等の
虐殺が発生 「暴動・投毒・略奪等」

○東日本大震災での流言・デマ

警察庁は1日、東日本大震災の被災地で「強盗や性犯罪が多発している」などと、不安をあおるような根拠のないデマ情報が流れていると発表した。…警察庁は「不確かな情報をうのみにしないで」と呼びかけている。

所轄署	日	時刻	場所	罪名	事実概要	被害人数	被害人数	処理順末	原順番	時間順
王子	9月2日	09時	西新井村本木 河出川金次郎 方外十戸及上	殺人強盗窃 盗詐欺	金品掠奪及殺害無銭飲 食及窃盗を為す	7	19	10月5日送 致	034	001
千住	9月2日	12時	南足立郡花畑 村字一近橋附	殺人未遂	日本刀及棍棒を以て全 治二ヶ月を要する重傷を 与へ	2	1	9月7日送 致	043	002
寺島	9月2日	17時	香篠町	傷害	通行中の被害者を誰何 し日本刀にて傷害す	1	1	10月13日 令状執行	054	003
天崎	9月2日	17時頃	大崎町桐谷屋 製菓会社付近	殺人未遂	不逞鮮人と誤信し棍棒玄 鉈露口等を以て殴打傷 害す	5	4	10月12日 令状執行	020	004
天崎	9月2日	17時頃	府下平塚村下 蛇窪六九二先	傷害	不逞鮮人と誤信し棍棒等 を以て殴打傷害す	5	1	10月16日 令状執行	022	005
天森	9月2日	17時頃	府下池上村路 上	傷害	不逞鮮人と誤信し棍棒を 以て傷害す	5	3	送致	024	006
世田谷	9月2日	17時頃	世田谷町太子 堂電車軌道内	殺人	猟銃を以て射殺す	1	1	10月19日 令状執行	025	007
葛川	9月2日	17時30分	葛川町南品川 三先路上	傷害致死	鮮人と誤信し傷害死に致 す	21	1	10月9日令 状執行	015	008
天崎	9月2日	17時30分	府下平塚村下 蛇窪三三六先	傷害	不逞鮮人と誤信し木剣棍 棒等を以て殴打傷害す	6	2	10月16日 令状執行	019	009
葛川	9月2日	18時	被害者自家裏 通	殺人未遂	不逞鮮人と誤信し棍棒等 を以て乱打傷害す	4	1	10月14日 不起訴	017	010
天崎	9月2日	18時	府下平塚村二 八八先路上	殺人未遂	不逞鮮人と誤信し露口鉈 等を以て重傷を為す	6	1	10月16日 令状執行	018	011
天崎	9月2日	18時頃	府下平塚村戸 越八四二先路	傷害	不逞鮮人と誤信し銃剣等 にて傷害す	2	1	10月22日 令状執行	021	012
天森	9月2日	18時頃	府下池上村路 上	傷害	不逞鮮人と誤信し棍棒を 以て傷害す	1	8	送致	023	013

- ・募金詐欺、日本赤十字社などを騙る「フィッシング詐欺」、災害情報を装った「ウイルスメール」などの存在が確認
- ・流言ではなく、発信者の善意の情報提供の中に、不正確で混乱を生じさせる情報がある

震災教訓 ○震災復興

(1)街路・土地区画整理の推進
昭和通り等の整備

東京都 都市計画地図(大正10年)

(2)復興公園・小学校の建設・設置

(3)震災復興橋梁の架け替え
全て震災後の復興計画で
架け替え(耐震・鉄骨化)

(4)隅田公園の整備

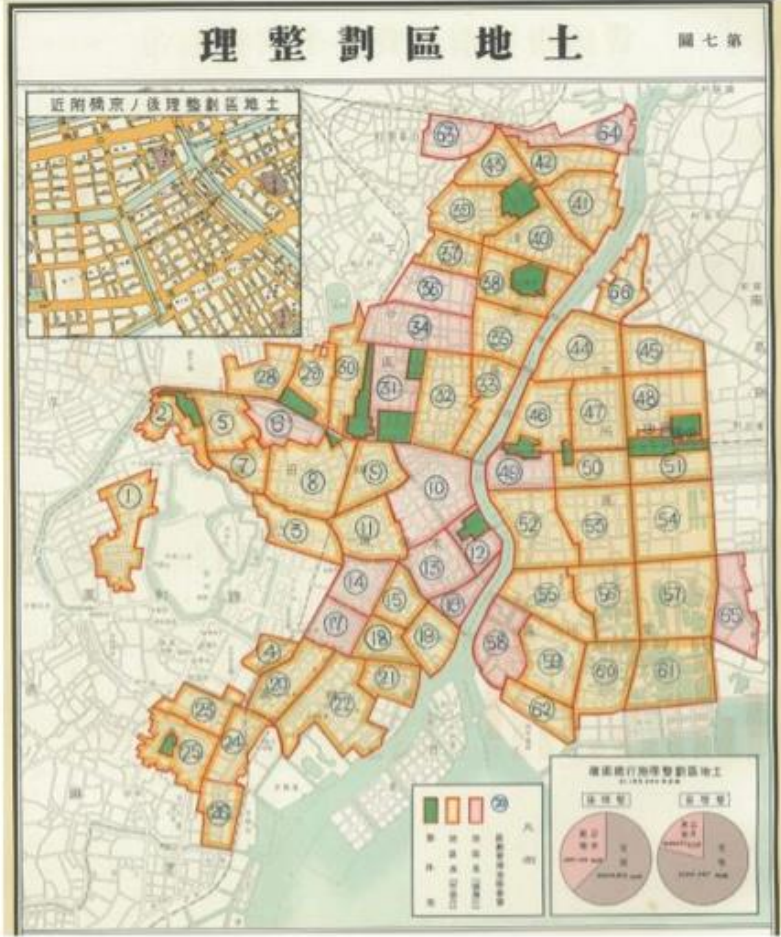
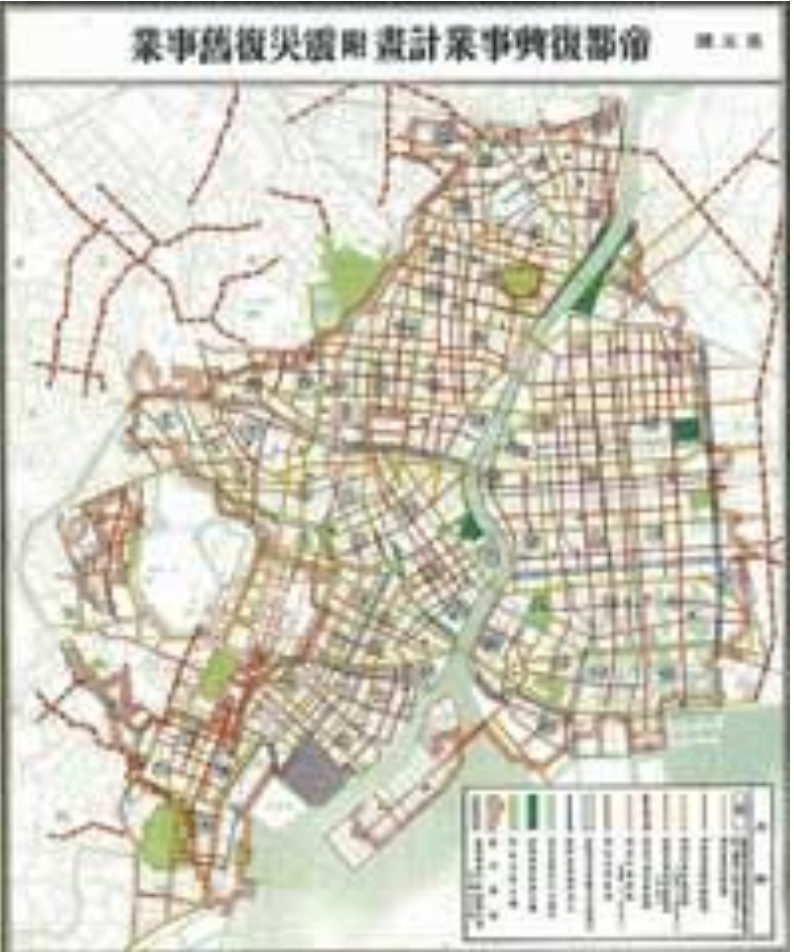


図1-7 土地区画整理事業の地区区分
(東京市役所編纂,「帝都復興事業図表」,東京市,昭和5年3月)

震災教訓を「我がごと」に まずは意識啓発

防災意識の現状

地震の予知、一部の防災は難しい

様々な備えによって

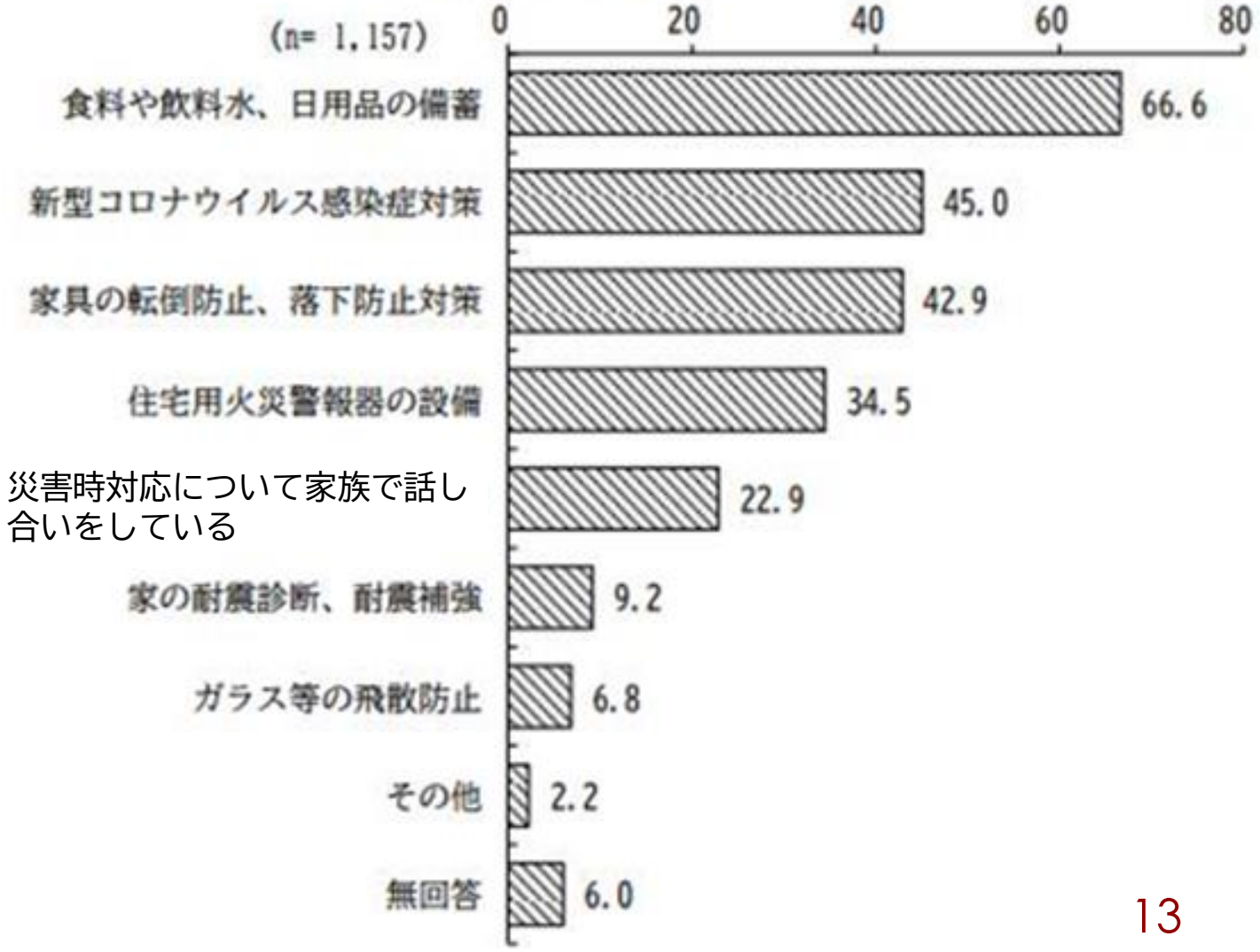
「減災」はできる

「備え」をはじめるきっかけが

家庭・地域での震災教訓の継承

防災啓発イベント

防災訓練等の参加



震災遺構をツールに

東日本大震災のような震災遺構 … 仙台市立荒浜小学校など

関東大震災では、実災害を実感できる震災遺構はほとんどないが

関東大震災の場合

⇒ 映像・写真が残っている

⇒ 帝都復興事業による構造物等が今も多く残っている

小学校・公園・橋脚 など

技術の発達 今だからできる防災・減災

在宅避難	100年前は…	<u>ほとんどが木造建築物</u>	<u>建築基準法はなかった</u>
	現在は…	ビル・マンション	耐震・耐火性 延焼リスクが低い 今も木造密集地域ではリスクが高い
備蓄・機材	100年前は…	<u>冷蔵庫なし・防災に活用できる機材少ない</u>	
	現在は…	長期保存可能な食料の普及、簡易コンロ、蓄電池	
ライフライン	100年前は…	水道・通信設備はほぼ破損	情報提供は皆無
	現在は…	R5被害想定 断水率 約46%	通信不通率 約1.4%

だから大丈夫でなく、今だからしっかり備えよう⁵

阪神淡路・東日本大震災の震災教訓

阪神・淡路大震災での教訓

- 建物の耐震化と家具転倒防止 <住環境の整備>
- ボランティア元年 <災害ボランティアの育成>
- 自主防災活動の重要性 <共助の推進>

東日本大震災での教訓

- 要配慮者の避難支援 <避難行動要支援者名簿の活用>
高齢者、障害者をはじめ、避難が遅れ、津波により、多くの犠牲者が発生しました。このため、国は避難行動要支援者名簿の活用を見直しました。
- 日常備蓄 <食料等の災害用備蓄 3日分⇒7日分>
圧倒的な『広域地震災害』であったため、供給体制の復旧に時間を要し、食料をはじめ、物資不足が課題となりました。多くの自治体で7日分を推奨しています。
- 災害教訓の継承 <自然災害伝承碑による伝承>
三陸津波地震や宮城県沖地震の教訓が生かされた地域も多く、減災に繋がりました。災害教訓を遺構、記憶、学習など、様々なかたちで、次世代に伝えていくことが大切です。

自助の取り組み

避難行動

適切な避難行動（避難所・在宅避難・親戚知人宅）

安否確認

伝言ダイヤル等の利用

情報収集 スマホ

防災アプリ 防災気象情報メール LINE/ツイッター

配付物

防災地図/ハザードマップ

備蓄品

日常備蓄(ローリングストック)

フェーズフリー()

減災の取り組み

家具転倒防止 感震ブレーカー

各種助成制度の活用

共助の取り組み

町会・自主防災組織(防災団)

発災時 初期消火 ・ 応急救護 ・ 情報収集・伝達・広報活動

要配慮者の安否確認・避難誘導 避難行動要支援者名簿の活用・支援

炊き出し・救援物資の配分

平常時 防災訓練の実施・活動費助成

避難所運営委員会 避難所開設・運営

マンション防災 マンション内での共助(安否確認・備蓄)

公助の取り組み

平常時

町会等での活動・訓練支援

備蓄

避難所の整備

防災意識の啓発

安全なまちづくりの支援

発災時

初動対応

情報発信

医療救護

応急危険度判定

生活の早期再建

復興計画

さいごに 関東大震災100年事業の紹介

災害教訓の継承

パネル展・企画展(図書館・朝倉彫塑館)・史跡マップ・学習リーフレット
遺構・防災体験ツアー(小学生向け) 復興公園説明板 特集番組など

防災意識・防災行動力の向上

たいとう親子防災ステージ・避難訓練コンサート・広報「たいとう」特集号
オンライン型アトラクションなど

災害に強いまちづくりの推進

都市復興シンポジウム・都市復興訓練など

共助・公助の連携

自主防災組織活動助成金・集合住宅防災資器材の拡充
スタンドパイプ・給水栓セット